

九州工業大学に入学おめでとう！

明専会は学生支援事業に力を入れています！

一般社団法人明専会会長 高原 正雄(機43)



一般社団法人明専会を代表して皆さんのご入学を心よりお祝い申し上げます。

皆さんは大変な時期に受験勉強をされ、見事に入学されました。一番喜んでおられるのは、当然、ご自身だと思えます。また、ご家族の皆さまも大変喜ばれていることと拝察いたします。心からお祝いを申し上げます。

一昨年の12月、中国・武漢で発生した新型コロナウイルス(COVID-19)が世界中を脅威に陥れ、昨年は日本もあらゆるイベントなどが自粛、中止となりました。今年になっても、第2回目の緊急事態宣言が発令され、

我々の行動もままならぬ状況下に置かれました。

その結果、皆さんは一年延期となった東京オリンピック開催の年に入学となりました。

実は、今から57年前の1964年(昭和39年)、私が九州工業大学に入学した年は、日本で最初の東京オリンピックが開催された年でした。その東京オリンピック組織委員会会長が、九州工業大学の前身である明治専門学校(明専)の創始者・安川敬一郎翁の五男・安川第五郎先生でありました。そして、副会長が明専一期生、明専会初代会長、東レ会長に選ばれた田代茂樹先輩でありました。加えて、その時の東京都知事・東龍太郎氏の照子夫人は明専の開学者山川健次郎先生の三女でしたので、母校の卒業生たちは、日本の戦後復興と社会インフラの飛躍的向上を成し遂げた「明専オリンピックだ！」と、いって大変に喜んだものであります。

今回の東京オリンピックは、8年前に東京に招致が決定されて以来、競技場のデザイン問題、建設予算問題、エンブレム問題、マラソン開催場所移転問題、コロナ問題、失言による会長交代問題など、数々の難題を抱えての状況にありましたが、この世紀の祭典に向けて母校出身の多くの技術者が活躍しております。東京オリンピックが、「人類がコロナに打ち勝った証の大会」として是非とも成功することを祈りたいと思います。

九州工業大学は、今から112年前に、九州の炭鉱王・安川敬一郎翁が巨額の私財を投じ、教育界の巨星・山川健次郎先生を総裁に迎えて設立した。安川敬一郎翁は、常に報国の至誠に燃え、国家隆盛の基は、先ずは人材育成であるという理念を持っておりました。一方、山川健次郎先生は、会津白虎隊出身で、日本初の理学博士、東京帝国大学第6代総長の経歴を有した教育界の巨星でしたが、安川敬一郎翁の崇高な報国精神に深く感銘し、自らが理想とした教育『技術に堪能なる士君子の育成』、すなわち、会津武士道に通じる教育を、九州のこの地にて実践いたしました。厳格な教育を受けた先達の多くは、世のため人のために生涯を捧げ、国内外における産業界、教育界、政界などで著しく貢献されました。それが『名門・明専』と言われ続けてきた所以でもあります。その卒業生から成る明専会は、同窓の絆と母校支援を事業の柱とする社団法人であります。常に大学と連携して学生育成支援を強力に推進しております。皆さんは、これから国際的に通用するプロフェッショナル・エンジニアに成長するためにこの九州工業大学で工学に関わる専門的な学問や研究に専心していただくこととなります。最大限の支援を行いたいと思えます。

皆さんは、現在明専会の準会員(いわゆる、学生会員)として入会されています。卒業後に正会員に入会することになります。しかし、一昨年度より会費の特別優遇措置として、在学中でも終身会員になれる制度を導入いたしました。多くの特典がありますので、是非終身会員へ入会されることをお勧めいたします。

(いすゞ自動車(株)理事)